

2016年2月26日

日本ユニシス
 NTTソフトウェアの「特権 ID 管理ソリューション」が、秋田銀行にて採用
 - セキュリティの強化に寄与し、「特権 ID」^(注)の管理負荷を大幅に削減 -

日本ユニシス株式会社（本社：東京都江東区、社長：黒川 茂、以下 日本ユニシス）は、株式会社秋田銀行（本店：秋田県秋田市、頭取：湊屋 隆夫 氏、以下 秋田銀行）から、エヌ・ティ・ティ・ソフトウェア株式会社（本社：東京都港区、社長：山田 伸一 氏、以下 NTT ソフトウェア）が提供する「特権 ID 管理ソリューション」の採用を受け、3月の稼働を目指して本ソリューションの導入を開始しました。

秋田銀行では、昨今の情報漏えいなど不祥事件の発生が相次いでいる状況を踏まえ、委託先を含むシステム管理者の不正や情報漏えい防止の仕組みを検討していました。今般、業務システム全体を管理する要となる「特権 ID」のソリューション導入が情報セキュリティ強化に効果的であるとの判断の下、「特権 ID 管理ソリューション」導入の決定に至ったものです。加えて、各端末の操作を動画とテキストで克明に記録し、不正操作・誤操作に起因するシステムトラブルや情報漏えいといったリスクを低減するソリューションの導入も併せて決定しました。

日本ユニシスは、秋田銀行のシステム構築パートナーとしてこれらのソリューションの導入プロジェクトに参画しています。

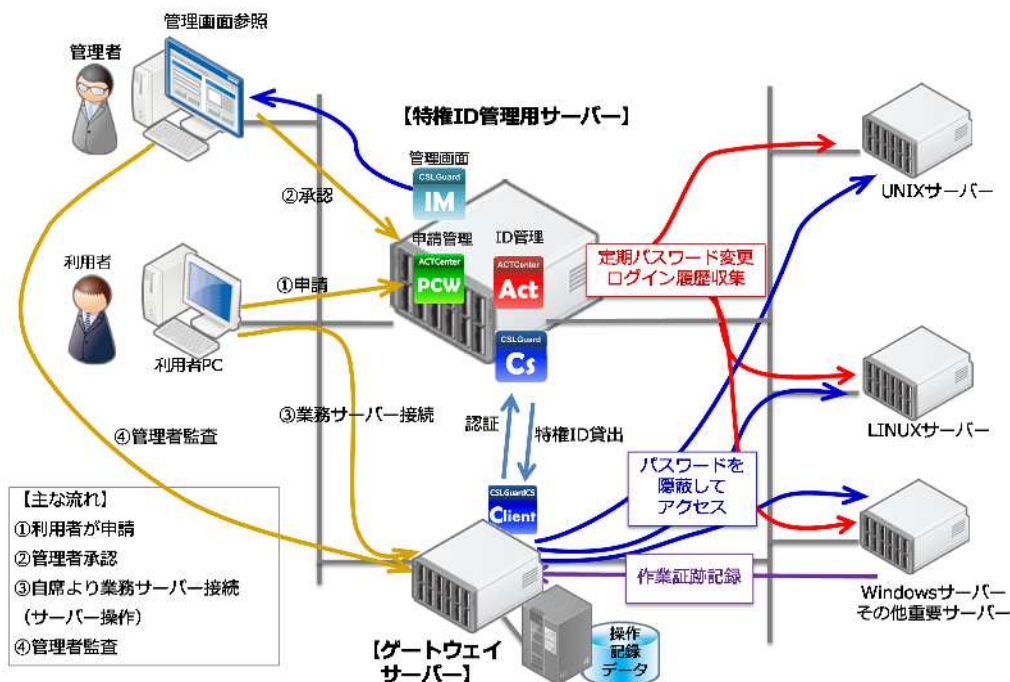
NTT ソフトウェアが提供する「特権 ID 管理ソリューション」の主な導入効果は、以下のとおりです。

1. システムの設定変更やメンテナンスなどの作業後に作業用特権 ID が無効になるため、不正アクセスを防止
2. システムが自動的にパスワードを変更するため、ID 管理者の負担が軽減され、不正アクセスのリスクも低減
3. 各サーバーへのログオン情報を統合的に収集するため、不正監査が容易
4. 登録されている ID 一覧情報の確認により無効な ID の削除や不正登録・不正削除された ID の抽出が容易

日本ユニシスでは、今回の秋田銀行での「特権 ID 管理ソリューション」も含めたセキュリティソリューション構築実績をもとに、今後さらに販売体制を強化し、新たな受注を目指していきます。

以上

「特権 ID 管理ソリューション」の導入イメージ



注：「特権 ID」

システムの設定変更やメンテナンスなどで利用される、高いレベルの権限を持ったシステム ID。Windows® OS では Administrator、Unix®系 OS では root などの ID のほか、データベースの管理やユーザーアカウント管理を行うためのシステム ID、ネットワーク機器の設定変更などを行うための権限を持った IDなどを指します。

権限が強く、複数の関係者で共有して利用することが多い ID のため、取り扱いには厳格な管理が求められます。企業のセキュリティ意識の向上や内部統制体制の強化などに伴い、特権 ID の管理はさらに重要視されています。

関連 URL

日本ユニシスの情報セキュリティサービス「iSECURE®」 <http://www.unisys.co.jp/solution/tec/security/>
NTT ソフトウェア 特権 ID 管理ソリューション <https://www.ntts.co.jp/products/privilege/index.html>

iSECURE は、日本ユニシス株式会社の登録商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows の正式名称は、Microsoft Windows Operating System です。

UNIX は、The Open Group の米国ならびに他の国における登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。

その他記載の会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

掲載のニュースリリース情報は、発表日現在のものです。その後予告なしに変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。